

日高教 学校司書部

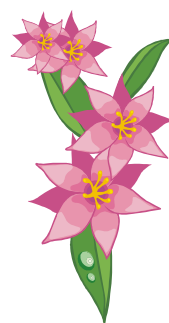
ニュース No.126 E-mail toshokan@educas.jp (←変わりました！)
2014.1.9 URL <http://www.nikkokyo.org>

このニュースは増し刷りして、
学校司書のみなさんにお配りく
ださい。

各ブロック交流集会報告

北海道・東北

9月28日(土)～29日(日)、北海道帯広市「ホテル大平原」で開催されました。参加者は8名でした。1日目は札幌琴似工業高校教諭川原茂雄氏による講演「原発と教育－原発と放射能をどのように教えるのか」が行われました。「原発と放射能の授業」に取り組み、市民に向けての「原発出前授業」は230回を超えたそうです。生徒に真実・事実を伝えて、自分で考えて選べるようにするという教育を、大人は怠ってきたのではないかという問いに、自分も深く反省し、司書としてこの問題に真摯に取り組んでいきたいと思いました。夜はビブリオバトルで楽しく交流し、2日目は各道県の実践報告を行ないました。(常任委員 戸田)



関東・甲越

12月7日(土)、群馬県磯部温泉の「ホテル磯部ガーデン」で開催されました。群馬4名、新潟1名、埼玉6名の参加がありました。このホテルは2014年度の総会・全国学習交流集会の会場となるところです。昼食の後、ホテル内を案内してもらい、参加者全員で下見をしました。全体会・分散会に適切な部屋がいくつもあり、よい会場を選んでもらったと思いました。

午後は、学校司書部事務局長小川さんから学校図書館法関連の情勢報告を受けた後、各県の取り組みを交流しました。

群馬：学校司書の採用はあるが事務職の枠内で資格を問われない。県とは毎年交渉し高校60校の三分の一が臨任に。地元出身議員への要請行動では、今回は紹介議員なしとなってしまったが、「学校は教育の場だから民間委託でなく正規職員がよい」と言った議員もいた。

新潟：学図法改正のことは県内司書の間では、話題になっていない。学校司書が県立図書館へ1年間の研修に出ているが、そのことを何に活かそうとしているのか、県も展望がないようだ。「臨任司書の蔵書転売事件」で蔵書の所在を問う監査あり。

埼玉：昨年12年ぶりの採用試験実施で、県立学校に3名配属。今年度も試験実施。

議員要請では4名の紹介議員を得られた。以上

各県からの報告には質問も出され、時間が足りないくらいでした。(常任委員 浜口)

北陸・中部・東海

11月9日(土)～10日(日)、長野の浅間温泉「みやま荘」で開催されました。1日目は、長野学校図書館フェスタとして、テレビ番組「情熱大陸」でも取り上げられ、新聞書評欄でもお馴染みのブックディレクター・幅允孝氏の講演がありました。ブックディレクターとは書店はもちろん、カフェやインテリアショップ、空港などにもコーナーを作る仕事のようなようです。「本」と「人」が上手に出会うように工夫し、自由な発想でデザインされた、数々のおしゃれなレイアウトを紹介していただきました。

翌日は、16名の参加で、各県の状況、対県交渉の様子について情報交換しました。愛知、長野、富山、各県とも非正規化が進んでいます。長野県は、異動内示より早い3月1日に、ハローワークで嘱託の募集をするので、ハローワークに出す前日には該当校の司書に連絡するように交渉したとの取り組み報告がありました。(常任委員 児島)

近畿・中国・四国・九州

11月30日(土)、「エルおおさか」で開催されました。中国・四国・九州ブロックとの合同開催で、30名の参加がありました。

午前中は、滋賀県野洲図書館司書の早田ひとしさんによる「ヤングアダルトと本をつなぐ」と題した講演がありました。野洲図書館でYAコーナーを立ち上げた時のことや、公共図書館の司書が集まり「with books」を作成したいきさつなどを話されました。

午後は、実践報告2本の発表がありました。1本目は、大阪府立山本高校の水元なゆりさんの「図書館は私の通学路～ちょっとの工夫でこの居心地」で、大阪府の「がんばった学校支援事業」による図書館のリニューアルについての報告でした。2本目は、大阪府立今宮工科高校の鈴木進さんの「生徒図書委員会活動」の報告でした。工科高校の特色を活かして、文化祭で大きなモザイク画を展示した実践や、図書館家具作成などの取り組みが紹介されました。

学校司書部長の山田早苗さんより、学校司書法制化運動についての現状の報告がありました。11月28日(木)に、全教・日高教・自治労連の組合三者で行なわれた、子どもの未来を考える議員連盟、文部科学委員、文教科学委員など関係議員への要請行動の報告もありました。最後に、各県報告を行いました。滋賀県・京都府・大阪市・大阪府・兵庫県・和歌山県・香川県から、報告とともに司書部ニュースや要求書の交換も行いました。大阪府では、維新府政下で図書費ゼロ円の学校があることや、府高図書館研究会司書部が解散したとのことでした。香川県では、司書の採用は障害者枠で行っているということです。質疑応答の時間が足りず、来年度からのスケジュールについては検討が必要ですが、充実した学習会となりました。(常任委員 山下)



11月末～12月にかけて、常任委員会を中心に、文科省交渉・要請行動・学校図書館関係団体との懇談を行いました。

11/28 自治労連・全教・日高教 組合三者による議員要請行動

自治労連から羽原さん・武田さん（共に岡山市の学校司書）と田川中執、日高教からは山田部長・小川事務局長・浜口常任委員が参加、全教は都合がつかず欠席となりました。自治労連・日高教混成でA・B2班に分かれて、衆参両院の子どもの未来を考える議員連盟、文部科学委員・文教科学委員など関係議員を訪ね、三委員長連名の要請書を手渡し、学校司書の専門性と必置を保障する法改正となるよう、強く求めました。

Aグループは衆議院の関係議員：河村建夫（自民）、泉健太（民主）、古屋範子（公明）、宮本岳志（共産）、塩谷立（自民）、郡和子（民主）、小淵優子（自民）、山本ともひろ（自民）、桜井宏（自民）、馳浩（自民）、菊田真紀子（民主）の各議員を訪ねましたが、多くは秘書対応で「要請内容を聞き置き議員に伝える」に止まりました。宮本議員の加藤秘書とは懇談し、「骨子案提示以降の動きはない。」「要請内容は理解するが、今日の情勢から正規での配置は難しいのではないか。」とのことでした。唯一、泉議員とは本人に会うことができました。「7月の参院選以降動きはない。骨子案についての検討はされていない」「次の通常国会に上程されるとしても、早くても3月～4月以降ではないか」「要請内容は理解する。しかし、必置には予算の問題が絡み実質は難しい」などと述べました。

Bグループは参議院の関係議員：中曾根弘文（自民）、川田龍平（みんな）、小坂憲次（自民）、橋本聖子（自民）、田村智子（共産）の各議員を訪問、こちらも殆ど秘書対応でした。橋本議員の谷川秘書からは、「骨子案は一步前進と捉えるべきではないか。改善の第一歩と捉え、配置の努力規定を5年後の見直しで義務規定にした高齢者雇用安定法など参考にすればどうか」と助言があり、また「仕事をするうえで身分保障や処遇は大事」「図書館の有用性は十分承知している」など励ましもありました。田村議員との懇談は時間の関係でニアミスとなり、12月に持ち越されました。

12/9議員要請A-α班

子どもの未来を考える議員連盟の小坂憲次議員（自民・長野）、同水岡俊一議員（民主・兵庫）、参議院文教科学委員会の二之湯武史議員（自民・滋賀）、紹介議員を引き受けてくださった行田邦子議員（みんな・埼玉）、穀田恵二議員（共産・京都）、を訪問。

小坂憲次議員の事務所では秘書宮本賢一氏と時間をとって話しができたものの、学校司書法制化については上程日程をはじめ、すべて「わからない」の一点張りでした。

議員連盟の方ではもう一人、穀田恵二議員の秘書折原知子氏にも話しを伺うことができましたが、やはり詳しいことは聞いていないとのことでした。紹介議員のお礼を申し述べてきました。

他の方々は、議員本人も秘書も不在というところが多く、入口で資料を渡すだけとなりました。

12/9議員要請A-β班

荒木清寛議員（公明）、山田俊男議員（自民）、石井浩郎議員（自民・秋田）、蓮舫議員（民主・東京）、矢倉克夫議員（公明・埼玉）、関口昌一議員（自民・埼玉）に要請してきました。議員は留守で、全て秘書対応でした。荒木清寛議員は請願署名の紹介議員を継続、昨年度紹介議員だった山田俊男議員、石井浩郎議員は検討中ということです。関口昌一議員は地元埼玉県でも要請を受けていましたが、あらためて検討するということでした。

12/9議員要請B班

衆議院第一議員会館へ出かけ、7名に面会を求めましたが、4名の秘書対応の依頼になりました。最初に、前回に引き続き、既に紹介議員となっている馳浩議員（自民・石川）秘書を訪ね、お礼と3・17院内集会への参加を依頼しました。続いて紹介議員の小宮山泰子議員（生活・北関東）秘書に、お礼と参加依頼をしました。三番目に北側一雄議員（公明・大阪）秘書を訪ね、好岡副部長が迫る口調で状況を説明し、法制化への要望を訴えました。最後に笠浩史議員（民主・神奈川）秘書に主旨説明し資料を渡しました。青木愛議員は外出中で面会できず、野田聖子議員と山井和則議員は不在で面会はできませんでした。

12/9 文科省交渉&議員要請

文部科学省交渉（12月9日14時～14時30分）

文部科学省から、初等中等教育局児童生徒課企画係長竹中千尋氏と大臣官房文教施設企画部防災推進室災害復旧係長小泉雅也氏の2名が出席、全教学校図書館職員対策部から畑山部長はじめ4名、日高教学校司書部から山田部長・戸田・浜口常任委員、五十嵐中執の4名が出席しました。

まず「学校司書の配置など学校図書館の充実を求める要請書」を手交し、署名の一次集約分1万5千933筆を提出したのち、要請内容に対する文部科学省の回答を受けました。

文科省の回答は、「図書整備費について、公立の義務教育校には新学校図書館整備5カ年計画で単年度200億、総額一千億円を措置している。一般財源につき、市町村で予算化に取り組んでいただくよう周知したい。公立高校については、地方交付税交付金の需用費のなかに算定の基礎に基づき図書費を含ませている。」「学校司書の法制化は子どもの未来を考える議員連盟において、議員立法で取り組まれている。その議論を待って、国として何ができるか検討していく。専任、正規という要求は理解できるが、地方の財政状況から直ちに実現させるのは困難。」「8月より学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査研究協力者会議を立ち上げた。地域により資質にばらつきがある。学校図書館担当職員としてこういう仕事はやってもらう、など整理する必要がある。年度内には学校現場に役に立つ資料を作り、報告をまとめる。」「学校司書の配置に関する地方財政措置は来年度も同額程度措置されるよう要求している。自治体での活用を周知していきたい。」「東日本大震災で被害を受けた学校図書館について、図書館は校舎の一部であり、すべて含めて実質的な地方負担ゼロで国から措置されている。蔵書についても国庫補助の対象。学校設置者の要望をよく聞き、対応したい。」というものでした。

この回答に対し、全教・日高教から、小中学校の図書館や被災地の学校の現状を再度訴えました。また、研究調査協力者会議で論議されている学校司書の質の確保について、「採用後の研修が必要なことは自明だが、今後配置される全国の公立学校の学校司書の専門性を保障するにはどうしたらよいか、それにはやはり資格の認定あるいは免許制度の確立が必要ではないか、文科省がそのことについても責任をもって明示してほしい。」と強く要請しました。

12/9文科省交渉

12/9議員要請C班

参議院文教科学委員会の田村智子議員（共産）と、懇談しました。学校図書館法の一部を改正する法律案の提出と、採決までの流れについて説明を受けました。文科省による「学校図書館の現状に関する調査」中の【学校図書館における人的整備の状況】（平成24年5月）の調査資料を示すと、よい資料をもらったと喜ばれました。骨子案の文言について、「専ら学校図書館の職務に従事する」がよいのか、日高教が要求している「学校図書館の専門的職務を掌る」の方がよいのか言葉の意味の違いについて法務局に尋ねてみるとのことでした。

衆議院文部科学委員会の青山周平議員（自民・愛知）、丹羽秀樹議員（自民・愛知）、石田祝稔議員（公明）、柏倉祐司議員（みんな・栃木）、井出庸生議員（みんな・長野）、菊田真紀子議員（民主・新潟）、紹介議員を引き受けてくれた小泉龍司議員（無所属・埼玉）、小川淳也議員（民主）、武正公一議員（民主）、吉川元議員（社民）を訪問しました。